

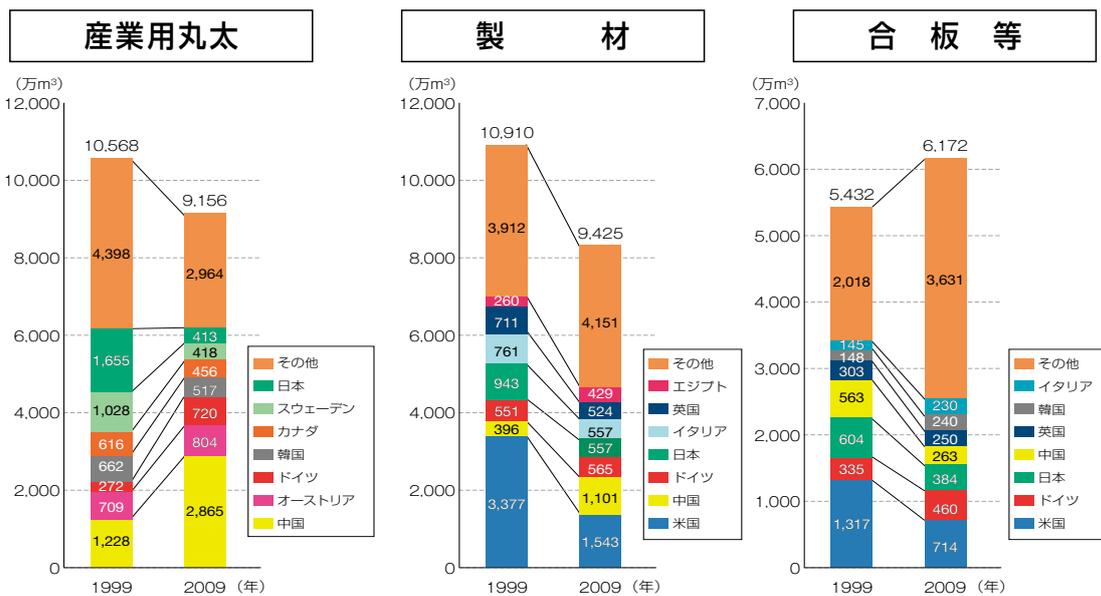
第V章 林産物需給と木材産業

1 林産物需給の動向

(1) 世界の木材需給の動向

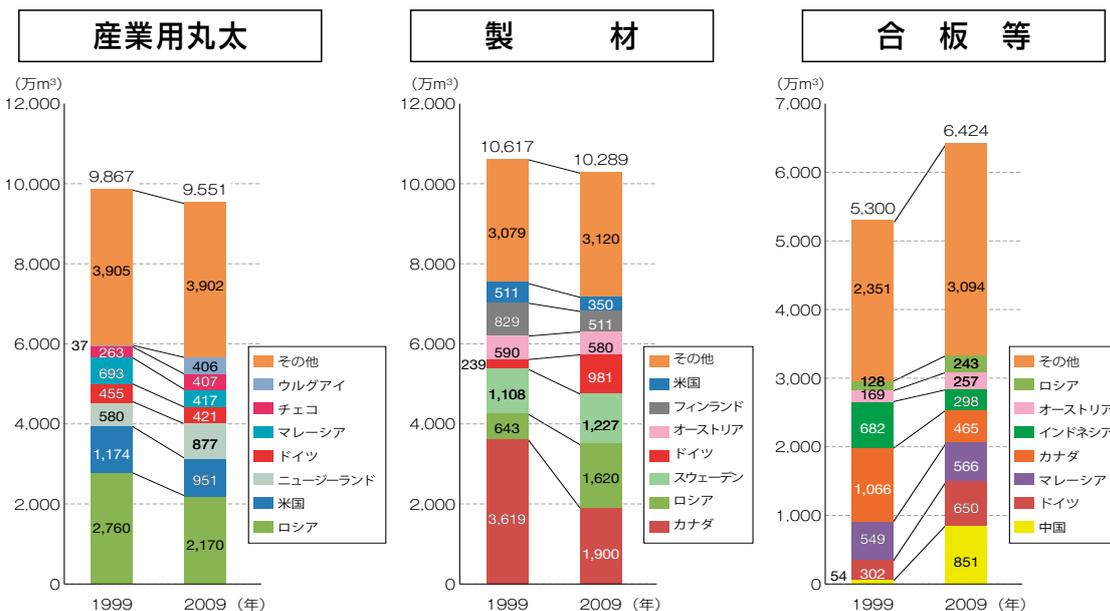
- 世界の産業用丸太消費量は、長期的には増加傾向にあるが、2009年は、前年秋以降の世界的な金融危機の影響を受け、前年比8%減の14億m³。
- 中国による産業用丸太の輸入と合板等の輸出が増加。また、ロシアによる産業用丸太の輸出が減少。両国の木材輸出入の動きは世界の木材需給に大きく影響。

世界の木材(産業用丸太・製材・合板等)輸入量(主要国別)



資料：FAO「FAOSTAT」(2011年1月12日最終更新で、2011年3月31日現在有効なもの)
 注1：合板等には、単板、合板、パーティクルボード、繊維板を含む。
 2：計の不一致は四捨五入による。

世界の木材(産業用丸太・製材・合板等)輸出量(主要国別)

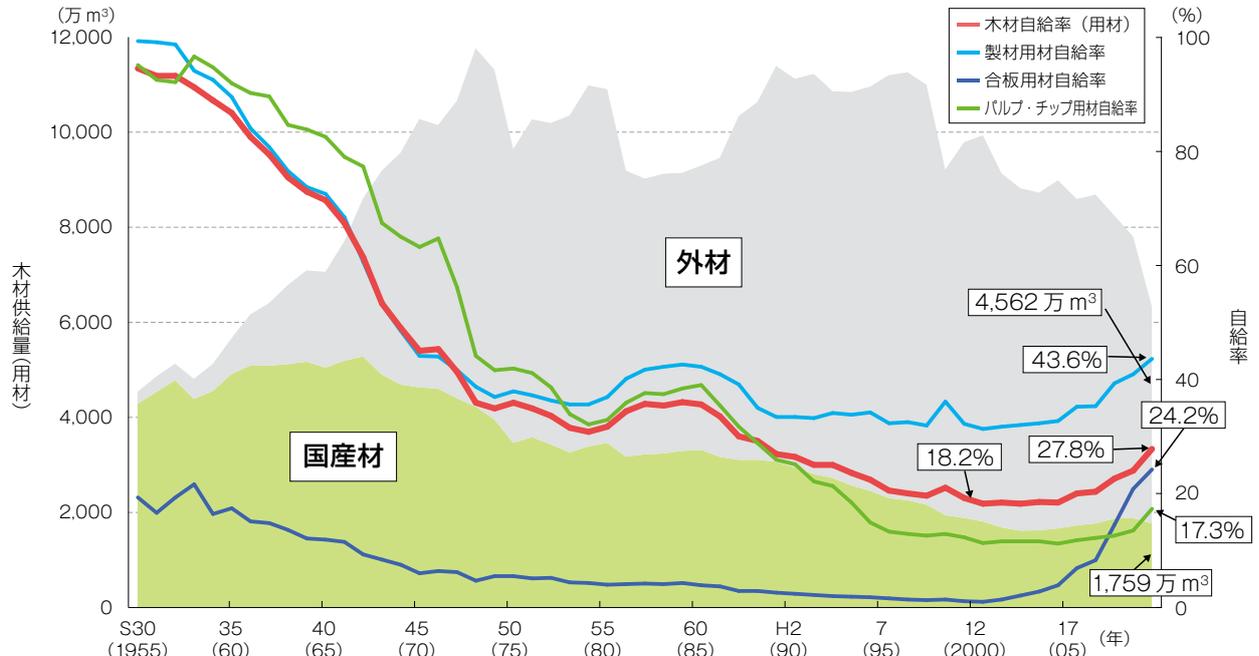


資料：FAO「FAOSTAT」(2011年1月12日最終更新で、2011年3月31日現在有効なもの)
 注1：合板等には、単板、合板、パーティクルボード、繊維板を含む。
 2：計の不一致は四捨五入による。

(2) 我が国の木材需給の動向

- 平成21(2009)年の木材需要量(用材)は、前年秋以降の急速な景気悪化等の影響を受け、前年比19%減の6,321万m³。
- 供給別では、国産材供給量は前年比6%減の4,562万m³であったのに対し、外材供給量は前年比23%減の1,759万m³。平成21(2009)年の木材自給率(用材)は27.8%に上昇。

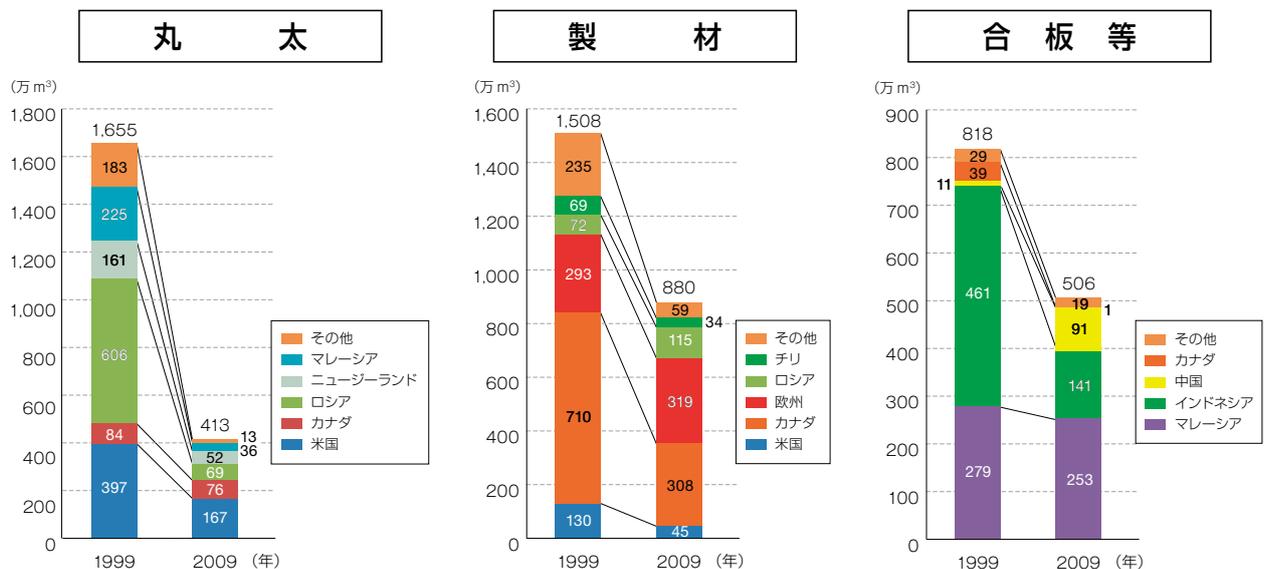
我が国の木材供給量(用材)と自給率(丸太換算)の推移



資料：林野庁「木材需給表」

- 平成21(2009)年の我が国の木材輸入量は、10年前と比べて、全ての輸入形態で減少。特に、ロシアからの丸太、カナダからの製材、インドネシアからの合板等が大きく減少。

我が国における木材の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

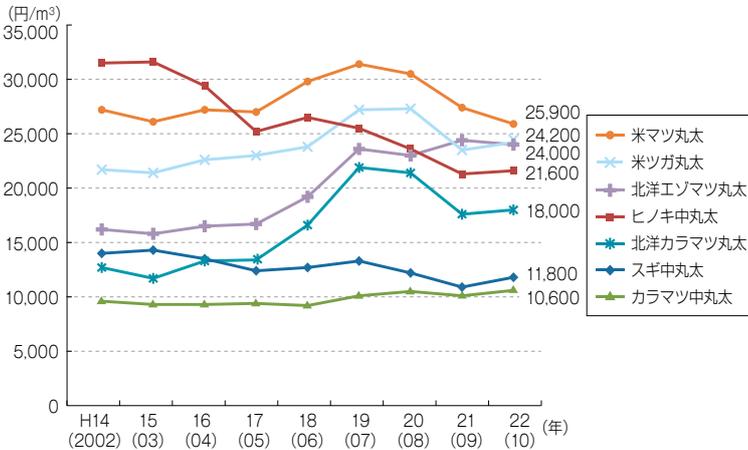
注1：合板等には、薄板、単板及びブロックボードに加工された木材を含む。

注2：いずれも丸太換算値。計の不一致は四捨五入による。

(3) 木材価格の動向

○平成22(2010)年の木材価格は、世界的な景気悪化により大幅に下落した平成21(2009)年に比べ、若干上昇傾向。

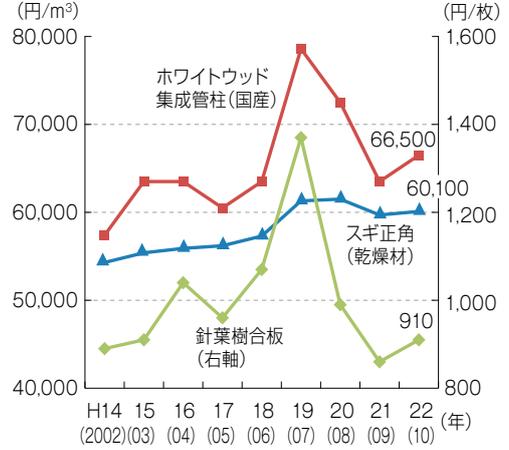
丸太価格の推移



資料：農林水産省「木材価格」

注：スギ中丸太(径14~22cm、長さ3.65~4.0m)、ヒノキ中丸太(径14~22cm、長さ3.65~4.0m)、カラマツ中丸太(径14~28cm、長さ3.65~4.0m)、米マツ丸太(径30cm上、長さ6.0m上)、米ツガ丸太(径30cm上、長さ6.0m上)、北洋カラマツ丸太(径20cm上、長さ4.0m上)、北洋エゾマツ丸太(径20~28cm、長さ3.8m上)のそれぞれ1m³当たりの価格。

製品価格の推移



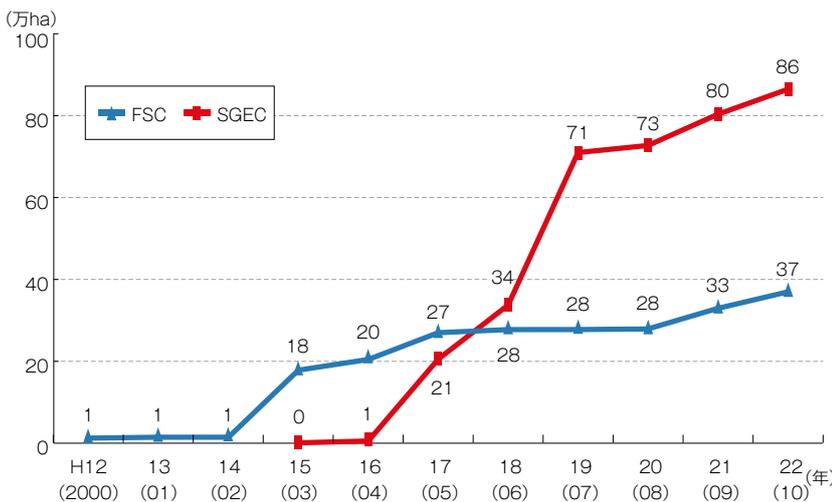
資料：農林水産省「木材価格」

注：スギ正角(乾燥材)(厚さ・幅10.5cm、長さ3.0m)、ホワイトウッド集成管柱(国産)(厚さ・幅10.5cm、長さ3.0m)はそれぞれ1m³当たりの価格、針葉樹合板(厚さ1.2cm、幅91.0cm、長さ1.82m)は1枚当たりの価格。

(4) 適正に生産された木材を使用する取組

- 持続的な森林資源の利用に向け、適正に生産された木材を使用する取組の一環として、合法木材を利用する取組や森林認証の取得が拡大。
- 我が国の認証森林面積の割合は、諸外国に比べて低位。

我が国における認証森林面積の推移



資料：林野庁業務資料

主要国における認証森林面積の割合

| 国 | 認証森林の割合(%) |
|--------|------------|
| オーストリア | 50 |
| フィンランド | 94 |
| ドイツ | 70 |
| スウェーデン | 64 |
| カナダ | 49 |
| 米国 | 16 |
| 日本 | 1 |

資料：FSC、PEFC、FAO「世界森林資源評価2010」

注：各国の森林面積に占めるFSC及びPEFC認証面積の合計(重複を含む延べ面積)の割合である。

(5) 特用林産物の動向

- 平成21(2009)年の特用林産物の生産額は2,891億円で、きのこ類が全体の約9割。
- 近年、中国からの生しいたけの輸入量が減少し、国内生産量が増加。

2 木材産業の動向

(1) 我が国の木材産業を取り巻く状況

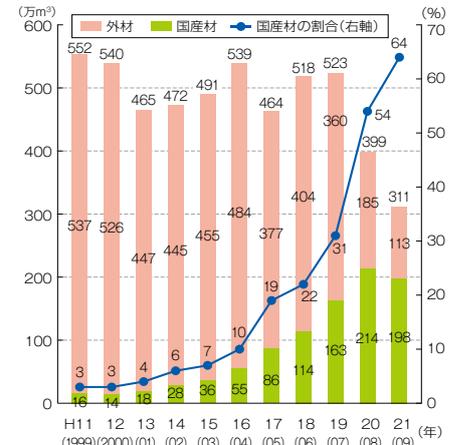
- 平成22(2010)年の新設住宅着工戸数は、記録的な低水準であった平成21(2009)年に比べて僅かに増加し、81万戸。木造率は57%に上昇。
- 製材工場は、工場数では7%にすぎない大規模工場が素材消費量の58%を占め、大規模化が進展。また、素材入荷量に占める国産材の割合が増加。
- 合板用素材供給量のうち、国産材が大幅に増加。合板用素材に占める国産材の割合は、平成21(2009)年には64%に上昇。

出力規模別の製材工場数、大規模工場による素材消費量の割合の推移



資料：農林水産省「木材需給報告書」、「木材統計」
注：計の不一致は四捨五入による。

合板用素材供給量と国産材の割合



資料：農林水産省「木材需給報告書」、「木材統計」
注：計の不一致は四捨五入による。

(2) 国産材利用拡大に向けた取組

- 木材加工技術の向上や外材をめぐる状況の変化等を背景に、国内の製材工場や合板工場では、国産材への原料転換が加速。国産材を取り巻く状況は大きく変化。
- 「新生産システム」の取組により、モデル地域における地域材の供給量は、平成17(2005)年度の132万m³から平成21(2009)年度の164万m³へと増加。

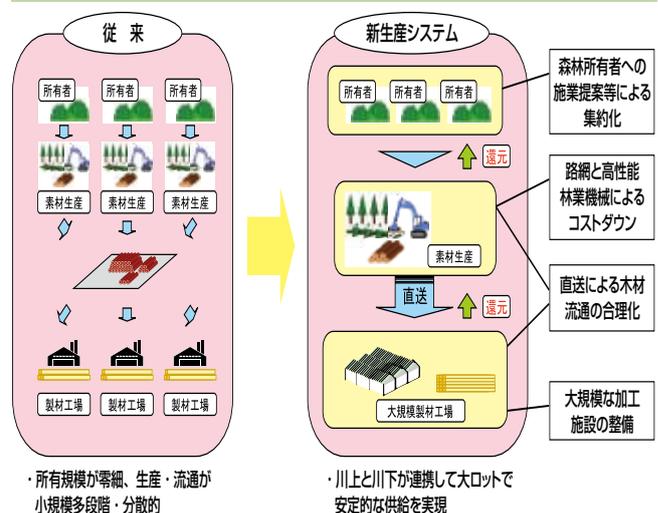
《事例》 国産材を使用する合板工場の整備

大手合板メーカーや岐阜県森林組合連合会等で構成されるM協同組合は、岐阜県中津川市において、合板原料として国産材を100%使用する大規模な合板工場を整備。同工場は、国内で初めて山間部で整備される大規模合板工場であり、これまで林内に放置されていた低質材の有効利用につながる事が期待。平成23(2011)年4月から本格稼働を開始しており、年間約9万5千~10万m³の原木を使用し、約250~300万枚の構造用合板を生産予定。



合板工場内部

新生産システムのイメージ



資料：林野庁業務資料